



# Hungarian National Philharmonic | SINCE 1923

**Ken-ichiro Kobayashi**, conductor Laureate

**Japan Tour 2023**

ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団

桂冠指揮者：小林研一郎

2023年 日本公演

# PROGRAM

1月16日(月) 19:00 東京 サントリーホール January 16 Mon. 19:00 Tokyo Suntory Hall

## ベートーヴェン: 「エグモント」序曲

L.v. Beethoven: Overture from "Egmont"



## ブルッフ: ヴァイオリン協奏曲第1番 ト短調 Op.26 (ヴァイオリン: 千住真理子)

M.Bruch: Violin Concerto No.1 in G minor Op.26 (Violin: Mariko Senju)

- |                        |  |
|------------------------|--|
| 第1楽章: 前奏曲、アレグロ・モデラート   | 1 <sup>st</sup> Mov.: Vorspiel. Allegro moderato |
| 第2楽章: アダージョ            | 2 <sup>nd</sup> Mov.: Adagio                     |
| 第3楽章: フィナーレ、アレグロ・エネルジコ | 3 <sup>rd</sup> Mov.: Finale. Allegro energico   |

\* \* \* \* \*

## ドヴォルザーク: 交響曲第9番 ホ短調 Op.95 「新世界より」

A.Dvořák: Symphony No.9 in E minor, Op.95 "From the New World"

- |                         |   |
|-------------------------|---|
| 第1楽章: アダージョーアレグロ・モルト    | 1 <sup>st</sup> Mov.: Adagio-Allegro molto  |
| 第2楽章: ラルゴ               | 2 <sup>nd</sup> Mov.: Largo                 |
| 第3楽章: スケルツォ、モルト・ヴィヴァーチェ | 3 <sup>rd</sup> Mov.: Scherzo. Molto vivace |
| 第4楽章: アレグロ・コン・フオーコ      | 4 <sup>th</sup> Mov.: Allegro con fuoco     |

1月17日(火) 19:00 東京 サントリーホール January 17 Tue. 19:00 Tokyo Suntory Hall

## ベートーヴェン: ピアノ協奏曲第5番 変ホ長調 Op.73 「皇帝」 (ピアノ: 仲道郁代)

L.v. Beethoven: Piano Concerto No.5 in E-flat major Op.73 "Emperor" (Piano: Ikuyo Nakamichi)

- |                       |  |
|-----------------------|--|
| 第1楽章: アレグロ            | 1 <sup>st</sup> Mov.: Allegro              |
| 第2楽章: アダージョ・ウン・ポーコ・モツ | 2 <sup>nd</sup> Mov.: Adagio un poco mosso |
| 第3楽章: ロンド、アレグロ        | 3 <sup>rd</sup> Mov.: Rondo. Allegro       |

\* \* \* \* \*

## チャイコフスキー: 交響曲第5番 ホ短調 Op.64

P. I. Tchaikovsky: Symphony No.5 in E minor, Op.64

- |                                       |   |
|---------------------------------------|---|
| 第1楽章: アンダンテ — アレグロ・コン・アニマ             | 1 <sup>st</sup> Mov.: Andante — Allegro con anima               |
| 第2楽章: アンダンテ・カンタービレ、コン・アルクーナ・リチェンツァ    | 2 <sup>nd</sup> Mov.: Andante cantabile, con alcuna licenza     |
| 第3楽章: ワルツ、アレグロ・モデラート                  | 3 <sup>rd</sup> Mov.: Valse. Allegro moderato                   |
| 第4楽章: フィナーレ、アンダンテ・マエストーソーアレグロ・ヴィヴァーチェ | 4 <sup>th</sup> Mov.: Finale. Andante maestoso — Allegro vivace |

主催: ジャパン・アーツ 後援: 駐日ハンガリー大使館 / リスト・ハンガリー文化センター  
協力: ユニバーサル・ミュージック、ソニー・ミュージックジャパン インターナショナル

## 小林研一郎 指揮 ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団 2023日本公演

|              |                  |                                 |
|--------------|------------------|---------------------------------|
| 1月16日(月) 東京  | サントリーホール☆        | 主催: ジャパン・アーツ                    |
| 1月17日(火) 東京  | サントリーホール◎        | 主催: ジャパン・アーツ                    |
| 1月18日(水) 福岡  | 福岡シンフォニーホール☆     | 主催: (公財)アクロス福岡 共催: 福岡EU協会       |
| 1月19日(木) 名古屋 | 愛知県芸術劇場コンサートホール☆ | 主催: テレビ愛知                       |
| 1月21日(土) 鎌倉  | 鎌倉芸術館★           | 主催: 神奈川県芸協 共催: 鎌倉市芸術文化振興財団グループ  |
| 1月22日(日) 大阪  | ザ・シンフォニーホール★     | 主催: ABCテレビ                      |
|              |                  | ヴァイオリン: 千住真理子☆ ピアノ: 仲道郁代◎ 藤田真央★ |

# PROFILE



## 小林 研一郎 (桂冠指揮者)

Ken-ichiro Kobayashi, Conductor Laureate

東京藝術大学作曲科及び指揮科を卒業。第1回ブダペスト国際指揮者コンクールでの鮮やかな優勝を飾ったことを皮切りに世界的に活動の場を拡げ、現在も第一線で活躍を続けている。音楽に対する真摯な姿勢と情熱的な指揮ぶりは「炎のコバケン」

の愛称で親しまれ、名実共に日本を代表する指揮者である。

これまで海外ではハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団、ネーデルランド・フィルハーモニー管弦楽団 (25年間、常任客演指揮者を務める)、アーネム・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、フランス国立放送フィルハーモニー管弦楽団、ローマ・サンタ・チェチリア国立管弦楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、ハンガリー放送交響楽団等、国内では NHK交響楽団、読売日本交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、東京都交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、九州交響楽団等、名立たるオーケストラと共演を重ね、数多くのポジションを歴任。この長年にわたる文化を通じた国際交流や社会貢献によって、ハンガリー政府よりリスト記念勲章、ハンガリー文化勲章、ハンガリー国大十字功労勲章(同国で最高位)等、国内では、旭日中綬章、文化庁長官表彰、恩賜賞・日本芸術院賞等を受賞。

作曲家としても数多くの作品を書き、1999年に日本・オランダ交流400年記念の委嘱作品、管弦楽曲『パッサカリア』を作曲、ネーデルランド・フィルハーモニー管弦楽団によって初演されると、聴衆から熱狂的な喝采を以て迎えられた。同作品はそれ以降も様々な機会に、アシュケナージ指揮N響、小林研一郎指揮日本フィル等で再演されている。

2005年、社会貢献を目的としたオーケストラ「コバケンとその仲間たちオーケストラ」を設立、以来全国にて活動を行っている。

CD、DVDはオクタヴィア・レコードより多数リリース。著書に『指揮者のひとりごと』(日本図書協会選定図書)等がある。

現在、日本フィルハーモニー交響楽団桂冠名誉指揮者、ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団・名古屋フィルハーモニー交響楽団・群馬交響楽団桂冠指揮者、読売日本交響楽団特別客演指揮者、九州交響楽団名誉客演指揮者、東京藝術大学・東京音楽大学・リスト音楽院名誉教授、ローム ミュージック ファンデーション評議員等を務める。

オフィシャル・ホームページ <http://www.it-japan.co.jp/kobaken/>



## ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団

Hungarian National Philharmonic Orchestra

ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団は、2023年に創立100周年を迎えるハンガリーを代表するオーケストラのひとつである。

ヤーノシュ・フェレンチク、小林研一郎が活躍した時代に続く、1997年のゾルターン・コチシュの総音楽監督就任は、同団の歴史の新しいページを開いた。

この20年近くで同団はリニューアルを経験し、国立管弦楽団の名にふさわしい多様性を身につけ、クラシックのみならず、それ以前にはレパートリーに入っていなかった近代と現代のハンガリーの音楽を含む多数の重要な曲を演奏し、人気の高い室内楽コンサートや青少年のための催しも行っている。

ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団はリヒャルト・シュトラウス、ドビュッシー、シェーンベルク、ラヴェル、ラフマニノフの作品を、いくつかの意欲的なプロジェクトで演奏しており、20世紀と21世紀の現代ハンガリー音楽の運動を推進している。

バルトーク作品は特に同団のレパートリーの重要な位置を占め、多くの権威ある解釈が「バルトーク・ニュー・シリーズ」の枠で録音されている。

定期演奏会には世界的な有名ソリスト、指揮者、そしてハンガリーの才能ある若手音楽家がゲスト出演する。

これまでに同団が出演した著名コンサートホールと音楽祭をあげると、ニューヨークのエイヴリー・フィッシャー・ホール、東京のサントリーホール、バーミンガム・シンフォニーホール、アテネのメガロン、ブリュッセルのボザールセンター、ルーマニアのエネスク・フェスティバル、コルマル・フェスティバル、カナリア諸島フェスティバルがある。

この15年の間、同団は40数カ国で300回以上の公演を行っており、フランス、日本、ドイツ、ルーマニア、スペイン、スロバキア、スロベニアには繰り返し訪れている。



# HUNGARIAN NATIONAL PHILHARMONIC ORCHESTRA

CONDUCTOR LAUREATE : Ken-Ichiro KOBAYASHI

|                              |                    |                 |                               |
|------------------------------|--------------------|-----------------|-------------------------------|
| <b>1st VIOLIN</b>            | <b>VIOLA</b>       | <b>FLUTE</b>    | <b>TROMBONE</b>               |
| Ferenc BANGÓ                 | György PORZSOLT    | Imre KOVÁCS     | Ferenc KÓCZIÁS                |
| Attila FALVAY                | András RUDOLF      | Kornélia GÁSPÁR | Ákos GALLA                    |
| János BODOR                  | Enikő BALOGH       | Irén MÓRÉ       | Balázs KERÉNYI                |
| Gábor BODOR                  | Sándor KERTÉSZ     |                 |                               |
| Erzsébet GOMBOS-HUTÁS        | Zoltán KÖKÉNYESSY  | <b>OBOE</b>     | <b>TUBA</b>                   |
| János HORVÁTH                | Dániel KRÄHLING    | Eszter PAP      | Hidehiro FUJITA               |
| Eszter KÖKÉNY                | Dénes LUDMÁNY      | Ágnes KUBINA    |                               |
| Károly MELEG                 | Gyula MOHÁCSI      |                 | <b>PERCUSSION</b>             |
| Rita MICZKI                  | László RÁCZ        | <b>CLARINET</b> | Gergely BÍRÓ                  |
| Zsuzsanna MOLNÁR             | Mátyás TÖRÖK       | Zsolt SZATMÁRI  | Nándor WEISZ                  |
| Katalin NÉMETH               |                    | József NÉMETH   |                               |
| Dániel PAPP                  | <b>VIOLONCELLO</b> |                 | <b>MANAGEMENT</b>             |
| Katalin PRÖHLE               | Balázs KÁNTOR      | <b>BASSOON</b>  | István MALI Orchestra Manager |
| Péter SÁROSI                 | Zsuzsanna BAJNER   | Andrea HORVÁTH  | Krisztina KOVÁCS Tour Manager |
|                              | Beatrix FAZEKAS    | Edina SZALAI    |                               |
| <b>2nd VIOLIN</b>            | Sándor HARANGOZÓ   |                 | <b>STAGE MANAGERS</b>         |
| Éva DULFALVY                 | Mátyás HOTZI       | <b>HORN</b>     | Ottó AUBÉLI                   |
| Gábor BALI                   | Szilvia LANTOS     | László GÁL      | István KACSENYÁK              |
| Mária Marcella DETVAY        | Tünde LUKÁCS       | Balázs BORBÉLY  |                               |
| Lilla DÉVÉNYINÉ SZENTMIHÁLYI | Mariann PLESZKÁN   | Dávid KUTAS     |                               |
| Gyula GABORA                 |                    | László RÁKOS    |                               |
| Zoltán HORVÁTH               | <b>DOUBLE-BASS</b> | Tibor MARUZSA   |                               |
| Satoko KAKUTANI              | Iván SZTANKOV      |                 |                               |
| Veronika KIRÁLY-LUGOSI       | Gábor DÉVÉNYI      | <b>TRUMPET</b>  |                               |
| Réka KOLTAI                  | Balázs KÓTA        | Zoltán MOLNÁR   |                               |
| Román OSZECSINSZKIJ          | Zoltán KOZÁK       | Zsolt SKULTÉTY  |                               |
| Aliz SZABÓ                   | János MÉSZÁROS     |                 |                               |
| Krisztina SZABÓ              | Tibor ZSÁKAI       |                 |                               |



## 千住 真理子 (ヴァイオリン)

Mariko Senju, Violin

2歳半よりヴァイオリンを始める。全日本学生音楽コンクール小学生の部全国1位。NHK交響楽団と共演し12歳でデビュー。日本音楽コンクールに最年少15歳で優勝、レウカディア賞受賞。バガニーニ国際コンクールに最年少で入賞。慶應義塾大学卒業後、指揮者故ジュゼッペ・シノーポリに認められ、87年ロンドン、88年ローマデビュー。国内外での活躍はもちろん、文化大使派遣演奏家としてブラジル、チリ、ウルグアイ等で演奏会を行う。また、チャリティーコンサート等、社会活動にも関心を寄せている。

1993年文化庁「芸術作品賞」、1994年度村松賞、1995年モービル音楽奨励賞各賞受賞。1999年2月、ニューヨーク・カーネギーホールでのウェイル・リサイタルホールにて、ソロ・リサイタルを開き、大成功を収める。

2002年秋、ストラディヴァリウス「デュランティ」との運命的な出会いを果たし、話題となる。2015年はデビュー40周年を迎え、1月にイザイ無伴奏ソナタ全曲「心の叫び」、2月にはバッハ無伴奏ソナタ&パルティータ全曲「平和への祈り」をリリース、両作品ともレコード芸術誌の特選盤に選ばれた。2016年は、300歳の愛器デュランティと共に奏でるアルバム「MARIKO plays MOZART」をリリース。またプラハ交響楽団、ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団と各地で共演。2017年はブラームス没後120年記念「ドラマティック・ブラームス」をリリース、また全国でスーク室内オーケストラとツアーを行い、好評を博した。2019年はベートーヴェン生誕250周年に先駆け、ピアニストの横山幸雄と「ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ全集 Vol.1」をリリース。2020年は近年発見されたイザイの未完のソナタを新たに録音し、その楽曲を加えたイザイ無伴奏ソナタ全曲「心の叫び」<完全版>を再リリース。春には「ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ全集 Vol.2」をリリースした。またデビュー45周年を迎え、各地で記念演奏会を行う。2021年「蛍の光〜ピースフル・メロディ」を、2022年9月には最新アルバム「ポエジー」をリリース。

コンサート活動以外にも、講演会やラジオのパーソナリティを務めるなど、多岐に亘り活躍。著書は「聞いて、ヴァイオリンの詩」(時事通信社、文藝春秋社文春文庫)「歌って、ヴァイオリンの詩2」「ヴァイオリニストは音になる」(いずれも時事通信社)「ヴァイオリニスト 20の哲学」(ヤマハミュージックメディア)母との共著「母と娘の協奏曲」(時事通信社)「命の往復書簡2011~2013」(文藝春秋社)「千住家、母娘の往復書簡」(文藝春秋社文春文庫)など多数。

オフィシャル・ホームページ <https://marikosenju.com/>



## 仲道 郁代 (ピアノ)

Ikuyo Nakamichi, Piano

桐朋学園大学1年在学中に第51回日本音楽コンクール第1位、増沢賞を受賞。ミュンヘン国立音楽大学に留学。ジュネーヴ国際音楽コンクール最高位、メンデルスゾーン・コンクール第1位メンデルスゾーン賞、エリザベート王妃国際音楽コンクール入賞。88年に村松賞、93年にモービル音楽奨励賞を受賞。古典派からロマン派まで幅広いレパートリーを持ち、日本の主要オーケストラはもとより、海外のオーケストラとの共演も数多く、人気、実力ともに日本を代表するピアニストとして活動している。

これまでにサラステ指揮フィンランド放送交響楽団、マゼール指揮ピッツバーグ交響楽団、バイエルン放送交響楽団、フィルハーモニー管弦楽団、ズッカーマン指揮イギリス室内管弦楽団(ECO)、フリーベック・デ・ブルゴス指揮ベルリン放送交響楽団、P.ヤルヴィ指揮ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団と共演。99年にはカーネギーホールでリサイタル・デビュー、2001年にはサンクトペテルブルグ、ベルリンでコンチェルト・デビュー。05年には、英国チャールズ皇太子夫妻ご臨席のもとウィンザー城で行われたイギリス室内管弦楽団(ECO)主催の「結婚祝祭コンサート」に出演。室内楽ではストルツマン、ハーゲン弦楽四重奏団、ブランディス弦楽四重奏団、ベルリン・フィル八重奏団、グヴァントハウス弦楽四重奏団等と日本ツアーを行った。

CDはレコード・アカデミー賞受賞CDを含む「仲道郁代ベートーヴェン集成〜ピアノ・ソナタ&協奏曲全集」「ドビュッシーの見たもの」他多数。著書に『ピアニストはおもしろい』(春秋社)などがある。2018年よりベートーヴェン没後200周年の2027年に向けて「仲道郁代 The Road to 2027 リサイタル・シリーズ」を展開中。

一般社団法人音楽がヒラク未来代表理事、一般財団法人地域創造理事、桐朋学園大学教授、大阪音楽大学特任教授。令和3年度文化庁長官表彰、ならびに文化庁芸術祭「大賞」を受賞。

2022年12月17日には、ブダペストのリスト音楽院でヤーノシュ・コヴァーチュ指揮ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団とベートーヴェン：ピアノ協奏曲第5番「皇帝」を演奏し、「音のクリアさ、歩みの確かさによってはじめて生まれる抒情」「旋律や和声の美しさに決して溺れない。だがその音楽は情感に満ちている。」などと高く評された。

オフィシャル・ホームページ <http://www.ikuyo-nakamichi.com>

使用楽器：ヤマハコンサートグランドピアノCFX

## 【1月16日】

## ベートーヴェン: 「エグモント」序曲

古典派の巨匠ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770-1827)の代表的な管弦楽曲。1810年、ゲーテの同名戯曲のウィーン初演の際に、宮廷劇場からの依頼で作曲された。物語はオランダ独立運動の指導者エグモントの悲劇を描いた史実に基づく内容。ベートーヴェンは序曲のほか9曲の劇付随音楽を書いている。曲は荘重な序奏で開始。不安と穏やかさが交錯するアレグロの主部を経て、英雄を讃えた輝かしいコーダに至る。

## ブルッフ: ヴァイオリン協奏曲第1番 ト短調 Op.26

マックス・ブルッフ(1838-1920)は、ブラームスとほぼ同時期に活躍したドイツ・ロマン派の作曲家。19世紀後半には絶大な名声を誇ったが、現在は当ジャンルの重要レパートリーである本作など一部の曲のみが演奏されている。この曲は1866年の作。一旦初演後、名奏者ヨアヒムの意見を取り入れて改訂され、1868年彼の独奏によって大成功を収めた。

曲は旋律の美しさが光る甘美な音楽。第1楽章を「前奏曲」と名付けて第2楽章と完全に繋げるなど、自由な形式で書かれており、ヴァイオリンの音色美や技巧もふんだんに盛り込まれている。

**第1楽章**(前奏曲、アレグロ・モデラート)は、荘重さと優美さを併せ持った音楽。弦楽器の持続音で移る**第2楽章**(アダージョ)は、ロマンティックで瞑想的な、本作の中心をなす緩徐楽章。**第3楽章**(フィナーレ、アレグロ・エネルジコ)は、力強い主題を軸にした活気溢れる終曲。

## ドヴォルザーク: 交響曲第9番 ホ短調 Op.95 「新世界より」

チェコ国民楽派の大家アントニン・ドヴォルザーク(1841-1904)の最後の交響曲であり、当ジャンル屈指の人気作。1892年9月、ドヴォルザークは、ニューヨーク・ナショナル音楽院の創立者サーバー女史の誘いに応じて渡米し、1895年4月まで音楽院の院長を務めた。そして当地で知った黒人霊歌や先住民の音楽の要素と故郷のチェコ・ボヘミア色を融合させた、弦楽四重奏曲「アメリカ」、チェロ協奏曲等の名作を作曲した。その第1弾が1893年1-5月に書かれたこの曲。同年12月に初演され、空前の大成功を収めた。

本作は、現地の音楽への共感、新世界＝アメリカの印象、故郷への郷愁などが共存した、「アメリカ便り」ともいえる音楽。第1楽章序奏部の動機が全楽章の基軸となる。名旋律の豊富さも特筆され、特に第2楽章のメイン主題は「家路」の名でも有名。

**第1楽章**(アダージョ-アレグロ・モルト)は、遅い序奏の後、2つの主題を軸に劇的な展開を遂げる。**第2楽章**(ラルゴ)は、イングリッシュ・ホルンが出すお馴染みの旋律が流れる郷愁に充ちた主部に、美しくも切ない中間部が挟まれる。**第3楽章**(スケルツォ、モルト・ヴィヴァーチェ)は、歯切れ良い舞曲風の音楽。**第4楽章**(アレグロ・コン・フォーク)は、行進曲調の主題を中心に力強く進み、第1-3楽章の主題も顔を出す。管楽器の伸ばした音が減衰する終結は大変珍しい。

## 【1月17日】

## ベートーヴェン: ピアノ協奏曲第5番 変ホ長調 Op.73 「皇帝」

ベートーヴェンが完成した最後の協奏曲であり、耳の病を乗り越えて幾多の名作を生み出した、中期「傑作の森」の代表作のひとつ。「運命」「田園」両交響曲初演の翌1809年に作曲され、1811年ライブツィヒで初演された。

本作には、1809年のフランス軍のウィーン侵攻による戦渦と、地主令嬢テレゼ・マルファッティへの恋愛感情という2つの背景があり、前者は軍隊風の曲調、後者は変ホ長調の明るい調性に反映されたといわれている。なお「皇帝」は、ベートーヴェンの命名ではなく、後に名付けられた(出版者の命名とされる)愛称だが、曲にまさしくフィットしている。

曲は、ピアノと管弦楽が交響曲的な融合と絶妙な対話を繰り広げる、エネルギッシュな音楽。第1楽章冒頭から華麗なピアノ・ソロが登場する点が大きな特徴をなす。また、第2-3楽章を切れ目なく続け、第2楽章の最後で次楽章の主題を暗示的に登場させる手法も当時としては目新しい。

**第1楽章**(アレグロ)は、ピアノの広々としたソロで開始後、行進曲調の主題と歯切れの良い主題を軸に、華やかな楽想が展開される。**第2楽章**(アダージョ・ウン・ポーコ・モツ)は、穏やかな旋律が変奏を交えながら流れゆく、幻想的な緩徐楽章。**第3楽章**(ロンド、アレグロ)は、冒頭の勢いある主題を軸にした勇壮な終曲。

## チャイコフスキー: 交響曲第5番 ホ短調 Op.64

ロシア最大の作曲家ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー(1840-93)三大交響曲の2作目。シリアスさ、甘美さ、力感、情熱…など、この作曲家の魅力を満載した傑作として絶大な人気を誇っている。

交響曲第4番の初演から10年、外国滞在が多く、創作活動も抑え気味だったチャイコフスキーが、1888年、好環境のフロロフスコエ村に居を構えたのを機に完成。同年ペテルブルグで初演された後、西欧で成功を収め、生涯最後の傑作群の幕開けを告げることとなった。

他の曲に比べて作曲者自身の記述が少ない本作だが、一般的には「運命」がテーマだと解釈されており、第1楽章冒頭の旋律は「運命主題」と呼ばれている。主な特徴は、その運命主題が各楽章に必ず登場する点と、第3楽章に通常のスケルツォではなくワルツを用いている点。また、暗い運命主題が終楽章では長調に姿を変え、勝利の凱歌で終結する点も印象深い。

**第1楽章**(アンダンテ-アレグロ・コン・アニマ)は、まずクラリネットが運命主題を提示。主部は歩むような主題とのびやかな主題を軸に進行する。**第2楽章**(アンダンテ・カンタービレ、コン・アルクーナ・リチェンツァ)は、ホルンが出す美しい主題を中心とした陶酔的な緩徐楽章。**第3楽章**(ワルツ、アレグロ・モデラート)は、作曲家十八番の優美なワルツ。**第4楽章**(フィナーレ、アンダンテ・マエストロー-アレグロ・ヴィヴァーチェ)は、壮麗な開始後、2つの主題を中心に激しく進み、凱行進曲のような終結を迎える。